

第23回能代産業廃棄物処理センター環境保全対策部会（議事録）

- 1 日 時：令和元年10月9日（水）13：30～15：00  
2 会 場：秋田地方総合庁舎 6階 601会議室  
3 出席者：及川部会長、佐藤委員、菅原委員、林委員  
4 議 事：No. 2処分場における廃油入りドラム缶の分布範囲等について

5 議事の概要

県	(資料に基づき、調査結果について説明。)
部会長	本日は、1つは、廃油入りドラム缶の分布範囲の推定が妥当であるかという点と、もう1つはドラム缶の分布範囲に基づき設定した掘削範囲が妥当であるかの点について、皆様からご意見をいただくことになるが、まずは各論として、1つ目にボーリングで採取したボーリングコアの金属片と空洞の状況、2つ目に油状物質の分布状況、3つ目にボーリングコアのVOCの値のそれぞれの結果から推測されるドラム缶の分布状況について議論していただきたい。
	(廃油入りドラム缶の分布範囲について)
部会長	始めに、今回の調査でのボーリングコアに見られる廃棄物の状況全般について、気づいた点や感想等、ご意見をいただきたい。
委員	ボーリングコアを直接確認した際、揮発性物質のようなおいはしたが、ドラム缶に直結するような情報はなかった。
	ドラム缶のような板状の金属が対になって確認されていないことや、確認された金属片周辺のボーリングコアの状況からも、ボーリングはドラム缶に当たらなかったのだろうと思う。
部会長	ボーリングコア中の廃棄物分析結果をみると、現在の窪地の法面付近より、W10のように、そこから離れた地点の方が汚れているという印象を持った。
	次に、ボーリングコア中に金属片が確認されたことから、ドラム缶の存在の可能性を推測する。
	金属片の中でもひしゃげているものが、今回の調査や、過去の調査でもSB-1地点等で確認されている。このような金属片は、もともとひしゃげていたのか、それともボーリング時にひしゃげてしまうものなのか。

<p>県 (受託事業者)</p>	<p>ボーリングでひしゃげることもあれば、板状でそのままきれいに抜くこともあり、状況によるためはつきりとはわからない。ただ、SB-1地点で確認された金属片は、少し腐食が確認されたのでもともとひしゃげていたのはいかと考えている。</p> <p>また、ボーリングがドラム缶を貫通した場合、内容物が固形であれば、上下2枚の金属片がボーリングコアの中に入るが、液状の場合は、上の金属片はボーリングコアに入らないことが多い。</p>
<p>県</p>	<p>W1地点では、丸くきれいな形で金属片が確認されている。</p>
<p>県 (受託事業者)</p>	<p>W1地点の金属片は、上下が廃棄物で詰まっているにもかかわらず、単独で確認されているので、少なくとも容器の体をなしてはいなかった。ドラム缶に限らず板状の金属は埋められているであろうことから、ドラム缶の可能性は低いと考えている。</p>
<p>部会長</p>	<p>処分場に埋められている板状の金属は、ドラム缶以外にどのようなものが考えられるのか。</p>
<p>県</p>	<p>鉄板や、オープンドラムの蓋など考えられるが、元々が産業廃棄物最終処分場であったこともあり、様々な金属くずが埋められたかと思う。確認された金属片の性状から、それが何かというのは、はつきりとはわからない。</p>
<p>委員</p>	<p>板状の金属をかなりの量埋めたものなのだろうか。</p>
<p>県</p>	<p>がれき類が埋められていることを考えると、建築物に使われていた金属くずが埋め立てられた可能性も考えられる。</p>
<p>委員</p>	<p>金属片が単独で確認されていることや、ボーリングコアに空洞が確認されていないことから、ドラム缶の金属片なのかは疑問である。</p>
<p>県</p>	<p>ドラム缶の規格から、金属片の厚さが1mm程度のものは、ドラム缶の可能性があると整理をしている。</p>
<p>部会長</p>	<p>ただし、ボーリングコア全体の状況から判断すると、ドラム缶ではないという判断になったということか。</p>
<p>県</p>	<p>そのとおりである。金属片の厚みとしてはドラム缶の可能性はある一方で、周りの状況証拠から判断すると、その確信はない。</p>

部会長	<p>確認された金属片の状況からは、ドラム缶の存在を裏付ける情報は確認されなかったものと判断する。</p> <p>次にボーリングコア中に確認された油状物質の状況から、ドラム缶が存在する可能性を推測する。</p> <p>ドラム缶が存在していれば、油状物質と共に金属片も確認されると考えたが、関連はなさそうである。</p>
委員	<p>前回の掘削時に、ドラム缶から油状物質が漏れていたものがあれば、状況を教えてほしい。</p>
県	<p>ドラム缶の腐食が激しく、作業中に漏れてしまうものについては、代わりの容器に移し替えて対応した。作業中に地面へ流れ出たものもあり、油で汚れた土砂は回収し処分したが、広い範囲で相当数あった。</p>
委員	<p>ボーリングコアで確認された油状物質を見ると、目立つところに少しという感じで、全体に漏れているという雰囲気はないように思える。</p>
部会長	<p>原因者が、油状物質を直接撒いたという可能性はないのか。</p>
県	<p>わかりかねる。作業中に漏れたり、こぼれたりということがあってもおかしくはないが、あくまで想像なのではっきりとは言えない。</p>
委員	<p>油状物質の物性に共通性はないのか。</p>
県	<p>過去の掘削撤去時には、ドラム缶の内容物を分析しているが、成分は多種多様であり、今回の分析結果からも共通性は認められない。</p>
部会長	<p>確認された油状物質の状況からは、ドラム缶の存在を裏付ける情報は確認されなかったものと判断する。</p> <p>次に、W10地点の廃棄物分析において、高い濃度のVOCが検出されたことから、付近にドラム缶が存在する可能性を推測する。</p>
委員	<p>当該地点は、油状物質から高い値のVOCが検出されている一方で、金属片は確認されていない。直線関係にある11B地点とも状況が似ていることから、ドラム缶ではない別の要因によるものと推測できるのではないかと。</p>
部会長	<p>浅い位置で検出されていることから、撒いた可能性もあるかもしれない。</p>

委員	W10地点と11B地点では標高が異なるので、必ずしも同一の要因とは限らないのではないか。
部会長	気になるところではあるが、ドラム缶の有無に絞って考えれば、高い値のVOCが検出されたからといって、ドラム缶が存在するとは結びつけ難いだろう。
県	今後、地元住民の方との協議においても、気になるという話があれば、何か追加で調べることは出来ないか考える。
部会長	3点の各論について議論したが、ドラム缶は広範囲にはないという結論でよいかと考える。 次に、これらの結果から推定した廃油入りドラム缶の分布範囲が資料の10ページに示した範囲となり、これを除去するための作業範囲が11ページに掘削範囲として県から示されているので、この点について議論したい。
	(掘削範囲の設定について)
部会長	資料にある「掘削設計ライン」の意味について説明してほしい。ドラム缶の残存状況に関わらず、このライン以上は掘削しないとも、このラインまでは掘削するとも解釈できる。
県	基本的には、最大掘削範囲までとなると、ケース2の掘削設計ラインまで掘削することとなる。現状、ドラム缶がどこまで続いて残存しているかわからないので、掘削途中でドラム缶が確認できなくなった場合は、地元住民の方と協議を行ったうえで、最大掘削範囲よりも狭い範囲で掘削を終了することもあり得ると考えている。
委員	今後、地元住民の方への説明や協議を進めていくことと思うが、現状の説明図面から読み取りにくい部分もあるので、掘削終了の条件を段階的に明確に示してみてはいかがか。
県	誤解を与えない表現、方法を検討する。
部会長	議論は尽くしたと思うので、結論を申し上げますと、県のボーリング調査等により推定した廃油入りドラム缶の分布範囲は妥当なものと判断する。また、掘削範囲の設定の仕方についても、実際の掘削時のドラム缶の状況により掘削範囲に変更を加えるということでもあり、概ね妥当なものと判断する。